

一般社団法人コミュニティシネマセンター

平成29年度(2017年度)事業計画

1. 受託事業

[1] 地域の映像文化を担う人材を育成する-

映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ 2017

(文化庁 平成29年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

継続的に実施している人材育成事業。これまでに、デジタル時代における映像メディア・キュレーター
の育成 (H24)、ソーシャルビジネスとしての映像文化事業を展開できる人材の育成 (H25)、H26～27年
度は、文化政策における映画映像事業の現状、「上映」事業に対する振興策を考えることをテーマに、
人材育成プログラムを構築してきた。

シネコンの増加と既存館の閉館、デジタル化の進行と上映メディアの変化、自主制作映画の激増、映像
受容方法の多様化等、上映をめぐる環境は変化の途上にある。状況の変化や新たな動きを考えるための
シンポジウムやワークショップ、地域の上映者を育成するための、より具体的な様々なワークショップ
や情報提供の事業等を通して、地域の上映活動を支え、上映活動を担う新たな人材を育成する。

(1) 全国コミュニティシネマ会議の開催

2017年9月8日(金)～9日(土) 会場:横浜市開港記念館 他

このシンポジウムには、全国の映画館関係者、映画祭関係者、公共ホール・美術館・図書館(シネマテ
ーク)の映像事業担当者、自治体の文化事業担当者、シネクラブの主催者、自主上映団体が集まり、情
報交換、ディスカッションを行う。

テーマ(案):映画の「上映」とは何か。～多様化する「上映」を考える

映画の「上映」を、概念的な側面、技術的な側面、歴史的な側面等々、多面的に考える。

(2) ディスカッション&ワークショップ

「上映の基礎を学ぶワークショップ」(仮)

実施期間:2017年9月上旬予定(全国コミュニティシネマ会議に合わせて開催)

新たに上映を始めた人たち、これから上映を始めようとする人たち、コミュニティシネマの若いスタッ
フなどを主たる対象として、映写の基礎、著作権の基礎を教えるワークショップを実施する。

このほかにも上映に関するワークショップを実施する。

(3) Fシネマ・プロジェクトの推進

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづける
ための「Fシネマ・プロジェクト」。Fシネマの情報ポータルサイト「Fシネマップ」を活用した情報提
供・ネットワークづくりと上映者・映写技師育成のためのワークショップを行う。

また、フィルムでの上映企画を2～3会場で実施、合わせて講演会やワークショップを行う。

実施期間:ウェブサイトの運営は通年。

ワークショップは冬に実施予定。上映会は秋以降に実施予定。

上映会は2～3会場で実施する。(実施会場を募集)

※ワークショップ・上映会の1回は、アニメーション100年企画(シネマテーク・プロジェクトの項参照)と連動したも
のとする。

(4)アートマネージメントワークショップ イン 東北

東日本大震災の被災地、映画館がなくなってしまった東北の太平洋沿岸地域で、映画上映の場をつくり、映画文化の拠点づくりを支援するための事業。これまでに、宮古、釜石、石巻、南相馬等で事業を実施し、上映活動を行う団体・人材が育ちつつある。今年度は、これらの地域で、それぞれ、年間 2～3 回程度の上映会を企画・実施し、上映者の育成・自立を進める。東北の上映者同士の交流や情報交換の機会をつくり、東北圏内の上映団体への視察やヒヤリングなども行う。

実施期間:2017年7月～2017年3月(企画立案～実施)

実施地域(予定): 岩手(宮古、釜石)、宮城(石巻、気仙沼)等の上映者を対象に実施

※被災地以外でも類似の事業実施の希望がある場合、実施を検討する。

[2] 「映画上映活動年鑑 2017」の作成

(文化庁 平成 29 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

本調査では、「興行」(及び配給)の動向に関する既存のデータや情報を活用しながら、これに、映画祭や公共上映等の新しいデータを加えて、より幅広い視点から映画の[上映]をとらえ、データを収集し、分析する。これにより、国レベルあるいは地方自治体レベルにおける、文化事業としての上映活動振興を考えるための基礎資料を提供できるものと考えている。

●公共上映活動のデータの収集と分析

【論考】

- ・公共上映の現状 ・映画祭の変化 ・公共上映施設のデジタル化の現状/自主制作映画と映画祭

【データ】

- ・全国映画祭リスト
- ・映画を定期的に上映している公共施設リスト
- ・全国映画祭地図 映画祭+公共ホール
- ・映画収集保存・上映館(アーカイブ、シネマテーク)リスト

●興行データの分析・グラフィック化

- ・映画館での上映の近年の動向
- ・映画館の分類と特徴、変化
- ・マーケティング的な調査レポート

●特別調査

- ・ 映画上映から「復興」を考える …東日本大震災から6年が経過した東北沿岸部で映画上映がどのように変化したのか、同地域の映画館・文化施設・文化事業に関するデータをみることで、文化分野における「復興」を考える。
- ・ 上映環境詳細調査 …特定の県や地域の上映環境を、映画館・公共施設やシネマテークでの上映、映画祭や自主上映団体の活動などを併せて調査・分析する。(栃木県、長野県などを予定)

※ ミニシアター”とは何か …1980年代以降、映画上映の世界で重要な役割を果たしてきた「ミニシアター」の歴史と現在を検証する。(報告書への掲載は2018年度以降を予定)

●世界の映画上映事情

…各国大使館文化部へのヒヤリングを中心に、上映環境の変化、デジタル化への支援の内容等を聞く。
…世界のスクリーンを歩く …台湾を予定。

●ウェブサイトの構築

得られた情報は、冊子として発行すると同時に、可能な限り、ウェブサイト上で公開する。
主要ページは英訳を行い、公開する。

[3] 日本映画フィルモグラフィ（仮）の作成調査（フィルムセンター委託事業 ※予定）

日本映画フィルモグラフィ作成業務

(1) 新作日本映画のリストの作成（公開日数6日以内の作品のみ）

I 映画館

II 公共施設での上映

III 映画祭

(2) 詳細作品情報の作成

2. 自主事業

[1] 三陸映画上映ネットワーク事業(シネマエール東北 2017)

映画を上映することで、被災地の人々を元気づけ、被災地の復興に協力したいという思いから、2011年5月にスタートした「シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」。2016年度からは「三陸沿岸映画上映ネットワーク事業」として、被災地の新しい上映事業者の育成に力を入れ、被災地における上映活動を支援、推進している。今年度は3県で45回程度の上映を予定している。

共同開催、現地事務局・実施団体：

岩手県・みやこシネマリー / 釜石シネクラブ

宮城県・NPO法人20世紀アーカイブ仙台/ISHINOMAKI2.0(ISHINOMAKI金曜映画館)

福島県・山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワークほか

後援：日本アカデミー賞協会 **支援：**芸術文化振興基金

[2] シネマ・シンジケート プロジェクト

(1) 会員相互割引サービス/デジタルシネマの情報共有など

- ・ コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。
- ・ 間近に迫るデジタルシステムの更新について情報提供を行う。

(2) 会員館・団体共通「マナー広告」映像の制作

(3) 配給協力事業

- ・ 「the アートシアター」への協力など

[3] シネマテーク・プロジェクト /F シネマ・プロジェクト関連企画

(1) アニメーション 100 年特別企画(東京国立近代美術館フィルムセンター共同事業)

① 上映プログラムづくり

※フィルムセンター所蔵作品プログラムはパッケージ化するが、多くの子どもが参加しやすいように、近年のアニメ作品を加えることもできる。

② 上映のためのテキストづくり……2017年12月頃まで

③ 参考上映会の開催 (参考:「こども映画館」<http://www.momat.go.jp/fc/learn/kids/>)

映画の仕組みやアニメーションの歴史を伝えるような解説プログラムを併せて行う。

2017年度中には、上記の上映プログラムづくり・テキストづくり、参考上映会の開催を行い、2018年度以降、全国に上映を呼びかける。

(2) 「蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」

「F シネマ・プロジェクト」の一環として、東京国立近代美術館フィルムセンターと共同で、国立のフィルム・アーカイブであるフィルムセンターが復元し蘇らせた日本映画の名作の数々を、35ミリプリントで巡回する。

[4] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 「ケン・ローチ レトロスペクティヴ」(仮)

英国映画の巨匠ケン・ローチ監督の特集上映。全国に巡回する。川崎市市民ミュージアムが所蔵する同監督作品を軸に、上映権を取得し、特集上映を行う(2018年1月開催～巡回予定)。

(2) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

フレデリック・ワイズマン監督作品、ヤスミン・アフマド監督作品、福島県南相馬市の映画館「朝日座」についてのドキュメンタリー映画『ASAHIZA～人間は、どこへいく』、その他、当センターが保有する作品、配給委託作品の貸出を行う。

[5] その他の事業

(1) ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実など

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行う。会員制度のさらなる充実を期し、団体会員の増加をはかる。特に賛助会員の獲得を目指す。

(2) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど